

カブトムシの森・アカマツ林 五ヶ年保全計画

2019～2023

平成 31 年 3 月



油山自然観察の森 **森を育てる会**

五ヶ年保全計画

会では五年毎に現状やそれまで行ってきた活動を振り返り、参加する会員の総意のもと目指す森とするための保全計画を立て整備を行っている



カブトムシの森整備計画



「カブトムシの森五ヶ年保全計画」

「カブトムシの森」の現状を踏まえ、一般市民や「自然観察の森」の利用者に自然とのふれあい空間を提供するため、会及び管理事務所が協力し、多様な動植物の生育環境を保全するための持続可能な計画です。

基本理念

「落葉広葉樹を主体とした里山を育成・維持し、カブトムシに象徴される昆虫や多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを目指す。」

全体に対する関する整備内容

- ・皆伐でクヌギの材が沢山でるので切ったクヌギの活用を考える。⇒シイタケの棺木、薪（事務所と協議中）
- ・皆伐の後は①常緑樹を伐採する。②草花・実生を育成する。③草刈作業中心の活動
- ・下草の育成として、刈り草を現場に放置しないで別の場所で処理する。⇒C地区の斜面（10m×10m程度）で実験
- ・ヤードを撤去する。ヤードの杭丸太は階段に利用する。⇒アカマツ林の作業路用
- ・皆伐を行うため、何のために伐採を行っているかを説明するサインを設置する。
- ・飼育小屋は完全に撤去するか、土台は残しベンチや荷物置きに利用する。事務所が作成する（調整中）
- ・昆虫の多い森にするためには間伐などで切った材は森に残して土に還す。
- ・昆虫を増やすことを狙った樹種（エノキ、カラスザンショウなど）も育成する。
- ・蝶や他の昆虫が集まる木を増やす、明るいところを増やす、伐倒したクヌギを入園者が荒らせない場所で堆肥化する。（産卵床）
- ・サインについて ①全体案内板は既存の擬木の表示板に現在の案内を張付ける。
（かぶ森） ②C地区の手摺りに取り付けた名板は、C地区北側の新しい入口に移設する。
③サイン関係は森会でデザイン・表示内容を考え、センターに製作してもらう。

A地区の整備内容

- ・これまでの「クヌギの大径木を育てる」という計画から萌芽更新していく方針に変更する。
- ・クヌギ・コナラを皆伐・萌芽更新し、他の樹種は高木を除いて残し、順次複層林化し、落葉樹の里山とする。（低木は常緑樹も複層林にするために保存する）
- ・成長が速い樹種（シンジュ、ホオノキ、クマノミズキなど）は順次伐採・更新する。
- ・ヒメヒオウギズイセンを除去する



- ・湿地はやブ状態になるのを防ぐために草刈りを行う。

B 地区の整備内容

- ・せせらぎは、子供たちが楽しめるように整備する。⇒付添いが腰かけられるベンチを設ける
- ・珍しい植物（ハナイカダなど）を保護育成する。⇒ラベルを付ける
- ・林道側の大径木（タブノキなど）は、管理事務所に伐採を依頼する。
- ・東側のヤブツバキの森が暗いイメージなので間伐する。

C 地区の整備内容

- ・皆伐を目指す作業はA地区を優先し、C地区は近接している木から伐採する。⇒A→C→Bの順
- ・北側および東側が暗く、入りづらいイメージである。⇒階段上の名板を入口に移設する
- ・東側は、小径木の一部を除伐するだけでも明るくなると思われる。
- ・下層植生を豊かにするための方法として、過去の勉強会で学んだ「刈った草は別の場所で処理＝斜面 10m×10m」と「裸地を作る＝堆肥ヤード跡地 10 m²」ことを行う。
- ・キャンプ場側からの進入路は橋を直し、林道との間の灌木を除伐して、見通しを良くする。
- ・植栽木（ユリノキ、エンジュなど）は伐採する。
- ・排水口を樹木で遮蔽する。

主な作業内容

- ・伐採・萌芽更新
- ・草刈
- ・幼木育成
- ・せせらぎ整備（鎌田・松雪）
- ・堆肥ヤード管理
- ・林床植生の多様化
- ・植生調査（鎌田）
- ・昆虫調査（新牛込）
- ・ヒメヒオウギズイセンの撲滅
- ・湿地の管理（富永）
- ・希少植物の管理・育成（鎌田）

※（ ）書きは担当、その他は通常のカブ森作業として実施する。



カブトムシの森五ヶ年保全計画図

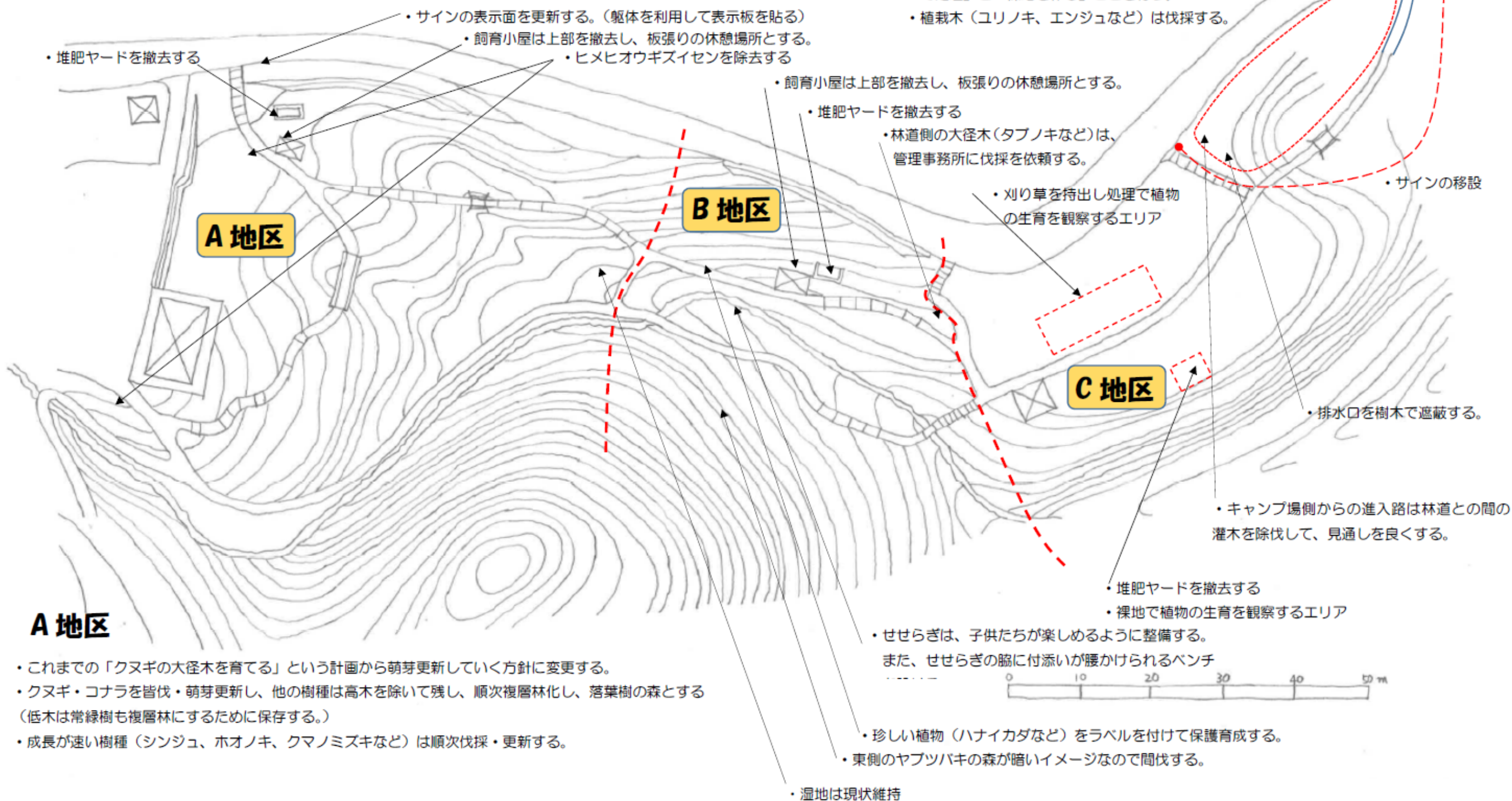
カブトムシの森五ヶ年保全計画図 2019～2023

基本理念

「落葉広葉樹を主体とした里山を育成・維持し、カブトムシに象徴される昆虫や多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを目指す。」

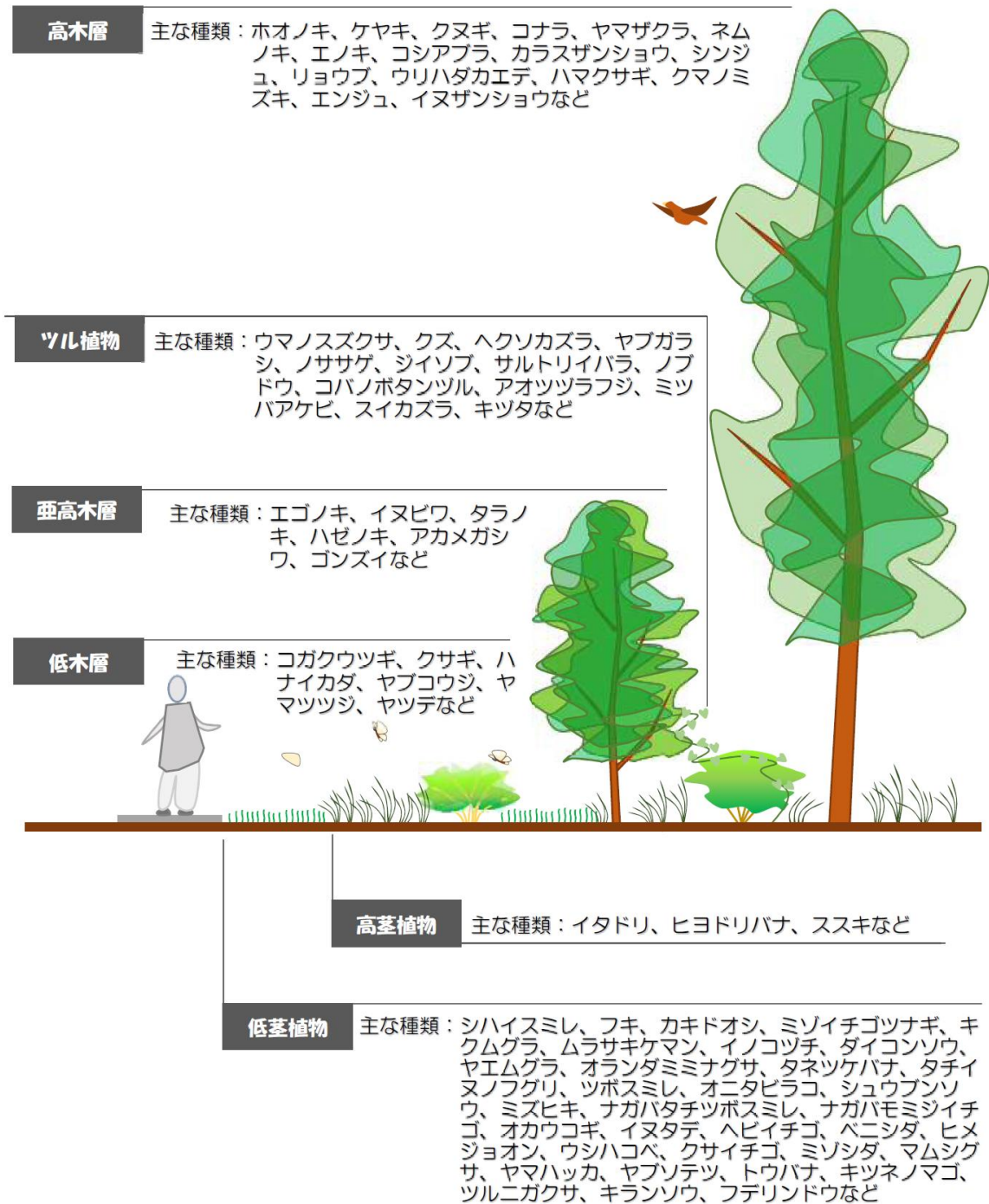
C 地区

- ・皆伐を目指す作業はA地区を優先し、C地区は近接している木から伐採する。
- ・北側および東側が暗く、入りづらいイメージである。
- ・東側は、小径木の一部を除伐するだけでも明るくなると思われる。
- ・下層植生を豊かにするための方法として、過去の勉強会で学んだ「刈った草は別の場所で処理」と「裸地を作る」ことを行う。
- ・植栽木（コリノキ、エンジュなど）は伐採する。





カブトムシの森 樹林構成図





カブトムシの森 保全作業年次計画

《カブトムシの森 基本理念》
「落葉広葉樹を主体とした里山を育成・維持し、カブトムシに象徴される昆虫
や多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを目指す。」

《カブトムシの森 5 年 計 画 作 業 工 程 (案)》

地区名	作業内容	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
カブトムシの森共通	草刈					
	植生調査					
	昆虫調査					
A地区	クヌギ皆伐・更新					
	(尾根部)					
	不要木の除伐					
	保存植物マーキング					
	ヤード撤去					
B地区	サインの更新					
	(斜面部)					
	ヒメヒオウギズイセンの撲滅					
C地区	クヌギ皆伐・更新					
	(尾根部)					
	不要木の除伐					
	保存植物マーキング					
	ヤード撤去					
D地区	水辺整備					
	(尾根部)					
	クヌギ皆伐・更新					
	(尾根部)					
E地区	不要木の除伐					
	保存植物マーキング					
	ヤード撤去					
	コドラートの設置					
F地区	サインの更新					
	(尾根部)					

凡例 ——— : 重点的に実施 ——— : 継続的に実施 - - - - - : 適宜実施 : 必要に応じ実施



アカマツ林整備計画



「アカマツ林五ヶ年保全計画」

テーマ

「い つ も 元 気 な ア カ マ ツ 林」

～幼木から大径木までのさまざまな成長段階が見られる森づくり～

夢は大きくマツタケの生える元気なアカマツ林

全体に対する関する整備内容

- ・貴重な樹木以外の観察木は伐採する。その他保存する樹木はマツタケの育成に必要なソヨゴ等、景観上必要なサクラ、ヤマボウシ等樹木、昆虫等が誘引できるクサギ、コシアブラ、エゴノキ、タムシバ等の花木とする。
- ・松くい虫被害で伐倒処理されたアカマツの幹等の処分の方法に問題あり、今後の枯損処理では県、市との調整が必要である。
- ・シュウラン、フデリンドウ、キキョウ、トンボソウの仲間、オケラ、イチヤクソウなど貴重な植物を保護育成する。

A 地区の整備内容

- ・ガイダンス広場へ下る遊歩道階段左側は広葉樹、小灌木の除伐で日当たり良好となり、実生、幼木が増えている
- ・アカマツ林の入口は、誘導するサインの設置や遊歩道の左右を伐開して明るいイメージの入口にする。
- ・炭焼き小屋裏を伐採してアカマツが見えるようにする。
- ・他の区域では見られない規模でヒヨドリバナ、シハイスミレが見られ、貴重なため保護が必要である。

B 地区の整備内容

- ・幼木の調査区より先は管理しない。（伐採された幹などで管理できない）
- ・手前は除草等の管理を行う。

C 地区の整備内容

- ・5年前は照葉樹林だったが、伐採により日当たり良好になった。



- ・ 今後は、実生、幼木の保護、低広葉樹は残す（ソヨゴは松茸との相性が良い）
- ・ 遊歩道の階段改修

D 地区の整備内容

- ・ 幼木が密生している為、間伐が必要

E 地区の整備内容

- ・ 日当たりが良くなり、実生が急速に発生している。
- ・ 谷側の広葉樹の除伐、新しいヤード作り、アカマツ大径木まわりの整備が必要である。

F 地区の整備内容

- ・ 伐採作業に先立ち、作業路を設ける。

主な作業内容

- ・ 伐採
- ・ 落ち葉掻き
- ・ 草刈
- ・ 間伐
- ・ 作業路・散策路整備（蹴上の高い部分の改良）
- ・ 堆肥ヤード管理（特別活動）
- ・ 成木・幼木調査（中嶋）
- ・ 希少植物の管理・育成（鎌田）
- ・ 入口らしさの整備
- ・ サイン整備（入口に案内看板整備、老朽化したサインの取替えなど）

※森会：デザイン、製作協力：センター

※（ ）書きは担当、その他は通常のカブ森作業として実施する。

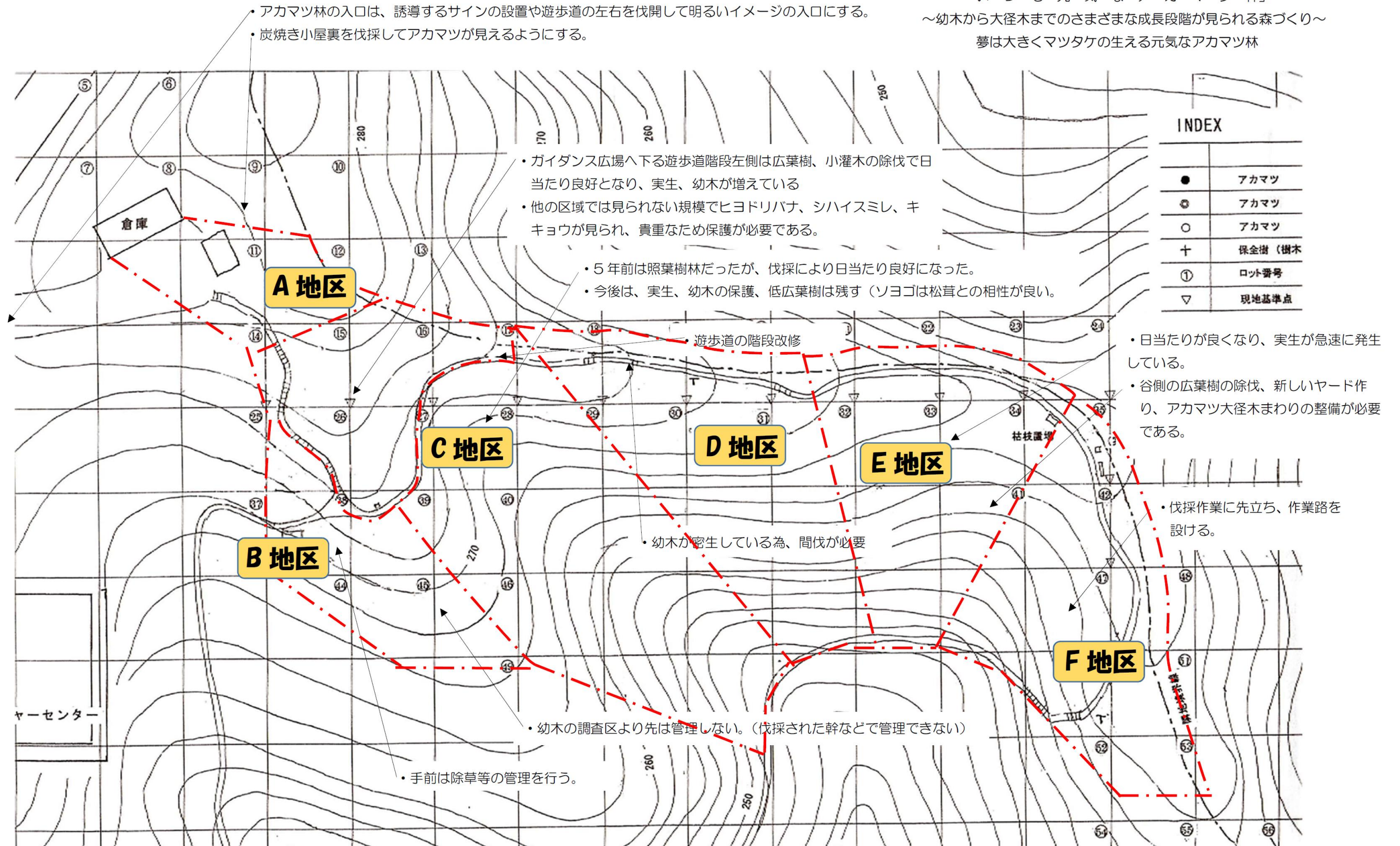


アカマツ林五ヶ年保全計画図

アカマツ林五ヶ年保全計画図 2019～2023

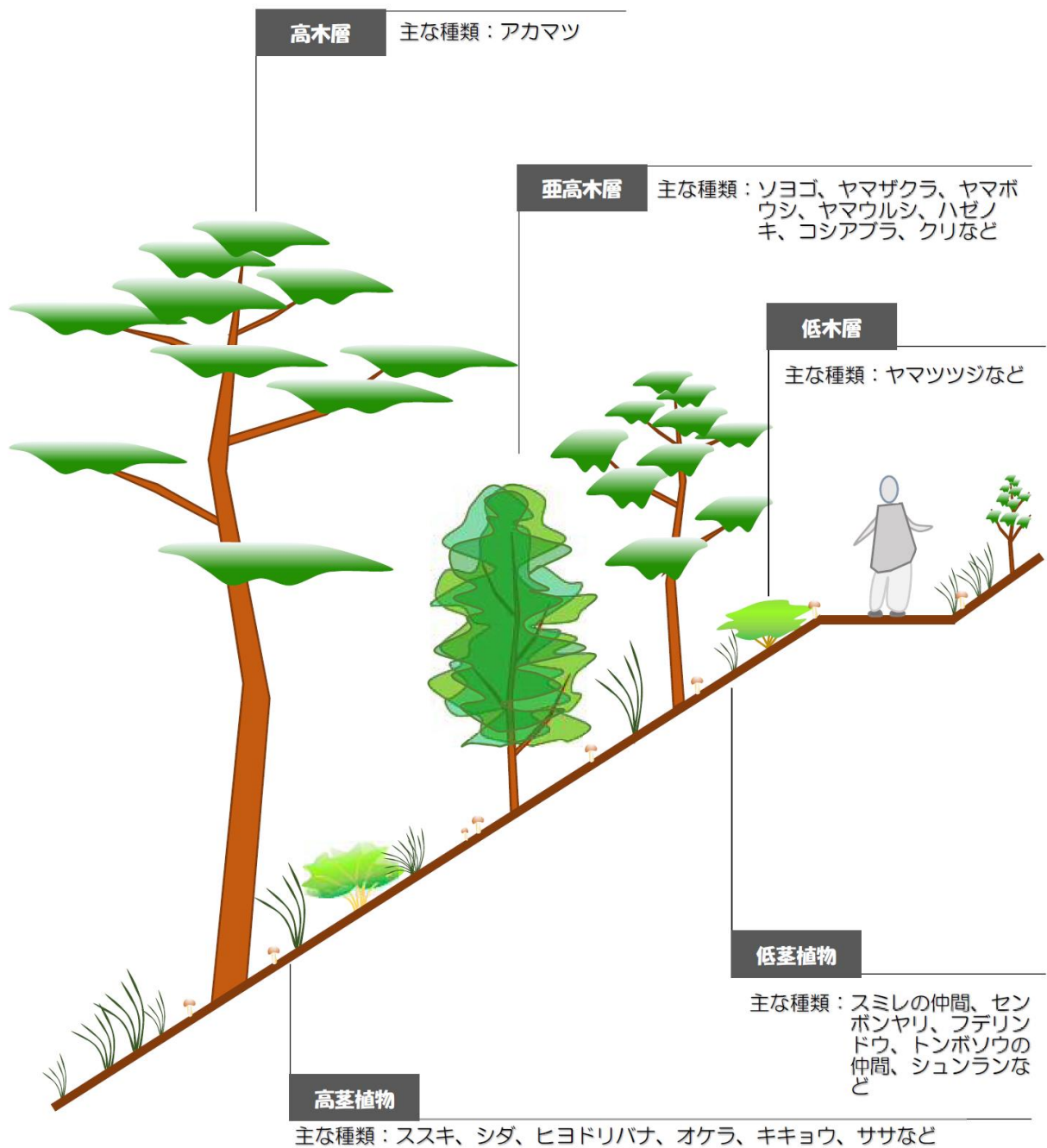
テーマ

いつも元気なアカマツ林」
～幼木から大径木までのさまざまな成長段階が見られる森づくり～
夢は大きくマツタケの生える元気なアカマツ林



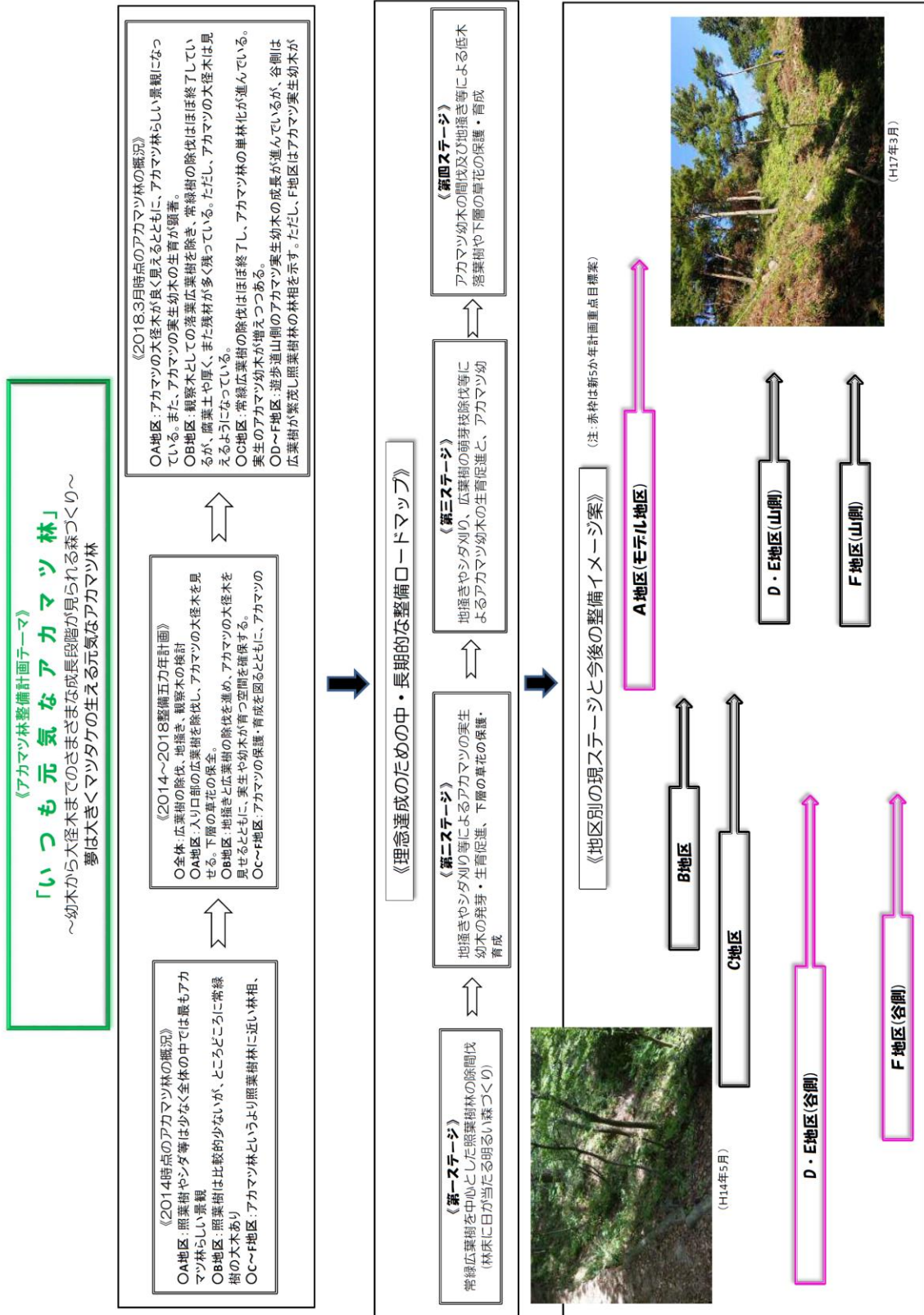


アカマツ林 樹林構成図





H29 総括図





アカマツ林 保全作業年次計画

《アカマツ林整備計画テーマ》
「いつも元気なアカマツ林」
 ～幼木から大径木までのさまざまな成長段階が見られる森づくり～
 夢は大きくマツタケの生える元気なアカマツ林

《アカマツ林5ヶ年計画作業工程(案)》

地区名	作業内容	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
A地区	(尾根部)	入口景観整備(除伐)				
		地掻き・草刈り・萌芽枝刈り				
	(斜面部)	地掻き・草刈り・萌芽枝刈り				
B地区		アカマツ幼木間伐				
		地掻き・草刈り・萌芽枝刈り				
		ヤード補修				
C地区		シダ刈り・萌芽枝刈り				
		広葉樹除伐				
		地掻き・草刈り・萌芽枝刈り				
D地区	(尾根部)	アカマツ幼木間伐				
		ヤード・作業道整備				
	(斜面部)	広葉樹除伐				
E地区	(尾根部)	地掻き・草刈り・萌芽枝刈り				
		アカマツ幼木間伐				
	(斜面部)	ヤード補修				
F地区		広葉樹除伐				
	(尾根部)	地掻き・草刈り・萌芽枝刈り				
	(斜面部)	アカマツ幼木間伐				
		広葉樹除伐				

凡例 ——— : 重点的に実施 ——— : 継続的に実施 - - - - - : 適宜実施 : 必要に応じ実施



その他活動全般に対する事項

- ・会でできない作業はセンター経由で管理事務所に願います。→大径木・クヌギの伐採、飼育小屋の撤去、遊歩道沿いの草刈
 - ・今後、活動の中でアカマツ林作業のウエイトが下がるので、その分カブトムシの森の作業が増やす。
- ・イベントの準備等のために行う活動日は雨天で作業ができないことを想定した予備日を設ける
- ・参加人数が減っているので機械化（チェーンソーに加え、刈払機）も致し方ない。導入を検討する）
- ・クヌギやクヌギ以外の保護が必要有用木の実生苗に支柱を立てて育てる。→ラベル付き支柱の設置（ラベルは店の植木についているラベルのような物）
- ・保全の内容を、客観的にわかる方法で記録する。→樹種と伐採した規格・本数を活動報告で記録
- ・五ヶ年計画で、だれに、どの活動をしてもらうかを計画に盛り込む。→各作業担当を決める
- ・新人や体験者には定着してもらうために丁寧に説明や指導を行う。→お世話係りをつける
- ・国有林内の作業については、正式に許可を得て作業を行う→センターが調整（レクリエーションの森の位置づけであり、保全活動 OK）